

第1回 伊賀市行政情報番組検討委員会 議事概要

日 時：平成30年8月30日（木）

午前10時30分～12時00分

場 所：上野ふれあいプラザ2階第3会議室

<出席者>

委 員：山菅委員長・中森委員・上田委員・前山委員・田中委員
事 務 局：企画振興部部長 宮崎 寿
企画振興部次長 東 弘久
広聴情報課長 越村 憲一
広聴情報課主幹兼広報広聴係長 馬場 俊行
広聴情報課主任 川合 理恵
広聴情報課 波多野 慈子

<事項>

- 1 あいさつ
- 2 報告 ・前回いただいたご意見に対する取り組み状況の報告
・現在までの放送内容について
- 3 議題 ・行政チャンネルのアンケート内容について
・「だから忍者市宣言!!」について
- 4 その他

<議事概要>

- 1 あいさつ

宮崎企画振興部長

- 2 報告

前回いただいたご意見に対する取り組み状況を下記のとおり報告した。

【事務局説明】

①会議通知の際に前回の議事録を同封してほしい。

⇒検討委員会開催の通知とあわせて今回から前回の議事録を同封させていただいた。

②番組表を置く場所の変更、広報紙やデータ放送に番組表を載せられないのか。

⇒ハイトピア伊賀に入っている子育て支援センター内に番組表は置いてあり、駐車券発券機の横などは健康推進課のスペースになるため置くことができない。広報紙への掲載は現時点ではスペースの関係で難しく、ポスター化も各支所の貼るスペースの確保や手間などから検討し従来どおりの対応とさせていただいた。またデータ放送に詳細の番組表を載せることは、ケーブルテレビのシステム改修が必要であり、改修するかを現在ケーブルテレビ内で検討中とのこと。

③忍者市について周知を図るためにどのような番組を作っていくべきか。

⇒忍者の歴史や精神を理解している市民が少ないので、忍者の史跡や行事を引き継いでいることにスポットをあてて一年間「だから忍者市!!」のコーナーで取り上げていこうと考えている。

④放送スケジュール（平成30年2月～7月）について

⇒スケジュール表には載っていないが、夏休み企画としてこどもアナウンサーを募集し、2週にわたって合計5人の子どもに出演してもらった。「こどもがアナウンサーとしてウィークリー伊賀市に出るから見てね」とママ友から連絡がきたり、今までと違った企画でよかったと思う。できたら冬休みもやってほしいなどの意見をいただいている。

【委員長】

それでは、事務局からの報告でしたので、ご意見、ご質問などにつきましては4のその他でお願いします。引き続き、事項3の議題に入らせていただきます。

(1) 行政チャンネルのアンケート内容について事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

資料2にあるように広報いが市、行政情報番組、HPやSNSなどについて利用しているか、利用していないか等の行政チャンネルのアンケートを3年に一度実施している。そして本日配布した資料の総合政策課が行った「まちづくりアンケート」の調査結果を見ると、市の情報は何で得ているかの調査の中で行政情報番組の「ウィークリー伊賀市」は23.1%人となっており、4分の1の市民がテレビから情報を得ていることが分かる。ただ、どのくらい見るかは「あまり見ない」、「一度も見たことがない」の割合が半分を占めている。これは3年前からほとんど数値は変わっていない状態であった。今回アンケートをするにあたって、基本事項で、どの世代の人が、どういう媒体を使って、どういう情報を重視しているのかをアンケートし集計できるように質問事項であげている。ほかには、災害

情報や火災情報・避難指示などの情報を流しているが見たことがあるか調査し、特に災害情報を見ていない人が多いようであれば、この部分をもっと周知していきたいと思う。また、アンケートに答えていただきやすいように質問項目を少なく抑えるようにしている。アンケート時期については、11月か12月頃に自宅へ配布できるように考えている。次回（2月頃）の検討委員会の際に、実施結果については速報版になるかと思うが、できれば報告したいと思っている。

【委員】

情報番組が4,500万円と広報紙の1,100万円の4倍のお金をかけており、予算の配分がよく分からないがどうなっているのか。

【事務局】

情報番組の映像については、機械の使用料、制作費、チャンネル使用料がかかってくる。また、広報紙の制作費は1,100万円となっているが、自治会等を通じて各戸配布するために1冊20円必要となっており、別途配布費として1,300万円かかっているため、合計2,500万円となる。テレビは放送機器の使用料が2,000万円ぐらいと、制作費は2,500万円ですべて合計4,500万円くらいになっている。テレビにこれだけの費用で取り組んでいるので、よりよい番組になるように考えていきたいと思っている。

【委員】

市民が見てくれる手立てを考えないといけないがなかなか難しいと思う。仕事をされている人や子ども達に見てもらえるように考えていく必要があり、他市とも情報交換していく必要があると思うがどうか。

【事務局】

お隣の甲賀市や亀山市と「いこか」連携をしており情報交換している。今回の夏休み企画で取り組んだこどもアナウンサーも甲賀市さんの取り組みを参考にさせてもらった。

【委員】

今後そのような情報交換をして他市の良い所や情報を得ていることも広報紙などに資料として載せていただきたいと思う。

【委員】

広報紙の配布は、自治会で行っているが、全部個別郵送で配布はできないのか。地域としては市からの資金が入ると思うが、配布する人も高齢化したり、配布する場所が広範囲になり、配布する人の負担も多くなっている。

【事務局】

名張市では宅配メールに切り替えているようだが経費は今より倍近く多くかかっているようではある。さらに地域の公民館だよりなどを一緒に広報紙に挟んで配布しているため、公民館だより等を各戸に配らなければならないのであれば、そのまま今まで通り広報紙も一緒に配布する形態にすればよいと現在も続けている。ただ、自治会などに加入されていない人は直接自宅へ郵送するような対応をとっている。

【委員】

ぜひ、配布の費用の関係もあると思うが、各戸配布の煩わしさを考えて名張市の様子も参考にしてほしい。いろんなことで伊賀市も今後は柔軟に対応してほしい。

【委員】

私の地域は広報紙に地域のたよりを挟んで配布することが多く、配布する人も順番にしてい、各戸の交流もあるから問題があるようには思えない。地区によって形態も違うので、各戸配布を良しとしている地区もあることは知っておいてほしい。

【委員】

まちづくりアンケートは毎年しているものか。毎年しているものなら推移を教えてください。

【事務局】

まちづくりアンケート自体は毎年しているものだが、「広聴情報について」のアンケートは今回が初めてだった。

【委員】

なぜ行政情報番組を放送することになったのか。

【事務局】

総務省から全国的に地域ケーブルテレビ網を整備するというテレトピア計画が出され補助金があったことや、伊賀市はテレビ視聴の電波障害のある地域も多く、さらには、東海系のチャンネルと関西系のチャンネルの狭間にあることから、情報が混在していることもありテレビ電波の難聴を解消するためであったのが始まりになる。またケーブル整備をする機会に、伊賀市独自の情報を1チャンネルを借りて伊賀上野ケーブルテレビさんの協力のもと提供することとなった。

【委員】

行政情報番組のチャンネルを1つ持つのではなく、ケーブルテレビの番組の中に行政情報番組を組み込むことはできないのか。

【事務局】

1コマ借りて放送することはできる。たとえば、名張市はケーブルさんの1コマを借りて行政番組を放送している。

【委員】

同じ内容が1日中流れているよりも、1コマを借りて流したほうが見れると思う。1コマ借りて放送するほうが、予算は安くないのか。

【事務局】

予算は安くなると思う。

【委員】

同じ内容が何回も流れてもやはり見なくなってしまうので、1コマ借りて放送するほうが予算も安くなる可能性があるなら検討して欲しいと思う。

【委員】

まちづくりアンケートの数値をみても、市民の中で視聴している人が約9万人のうち100人に1人も見ていないことになる。その状況で4,500万円の費用がかかっているのは税金の無駄ではないかと思う。

【事務局】

ただ、議会中継はかなりの人が見ている状況である。
1チャンネルをなくしてしまったときに、現在多くの人が見ている議会中継をどのように今後放送していくかを検討した上で1コマ借りる方法も考えていかないといけないと思っている。

【委員】

総務省からの補助金はまだ出ているのか

【事務局】

ケーブルテレビの整備に対しての補助なので、現在は出していない。

【委員】

広報紙を1ページ印刷するのに、どのくらいの費用が増えるのか。

【事務局】

1ページ印刷するのに、およそ2万2000円かかる。ただ、1ページ単位で増やせるわけではなく、冊子の関係上4ページごとに増やしていくことになるので費用も4ページ分増えることになる。

【委員】

今までは白黒だったがカラーに変わったことも影響しているのか。

【事務局】

白黒よりもカラーのほうが若干安い業者があることがわかり、写真もカラーのほうが分かりやすいので現在1日号はカラーで作成している。

【委員】

14年以上番組を放送していて、アンケートには行政番組を1度もみたことがない人がいること自体が問題だと思う。広報紙は8割の人が見ている。広報紙に番組表を載せたら少しは見るきっかけになるのではないか。

【事務局】

行政番組の視聴アンケートについては3割ぐらいが元々テレビ線も引いていない人も含まれているため数字は現状と違う部分もある。また、広報紙に番組表ではないが、チャンネルの紹介や二次元コードを掲載している。

【委員】

行政として情報を流さないといけないという義務はあると思うので税金を使ってチャンネルを持つことはよいと思うが、今後もさらに市民の方に見てもらおうと工夫をする必要がある。

【事務局】

そうですね。

【委員】

3年おきにアンケートを取っているということですが、基本事項については前回と変更しているところはあるのか。

【事務局】

アンケートは統計的な推移をとることも目的としているので基本事項については大幅には変更していないが、そのときの状況により調査したい内容を付け加えながら行っている。

【委員】

先ほど説明にもあったがアンケート自体は簡潔にとのことだったが、最後に自由記載ができる欄をつくることのできないのか。

【事務局】

自由記載欄をつくることはできるので、作る方向で検討したい。

【委員】

自由記載欄を設けるといろいろな意見が出てくると思うが、主要な意見だけ集計結果に載せるべきだと思う。全部を載せていたら大変なことになる。

【事務局】

集計結果については、主要な意見を集約してまとめていくようにしたいと考えている。

【委員】

行政番組については、市民がアナウンサーとして出ていることや市民が参加しているという企画が面白いと思っていた。その中で、特に良いなと思っていたところが、市民スタッフさんの後ろで地域の背景が流れているところ。一度島ヶ原の地域でドローンを飛ばして流れたこともあった。このように、番組が始まったときに「地域の人が出て、地域の風景が映る」という企画に対して良いなと思ったが、その番組が1日に何度も同じものが流れる状況が見ない理由になっていると思う。また地域によってチャンネルが違うことの周知もあまりされていないことが問題と思うがどうか。

【事務局】

1週間にいくつかの種類の放送内容をつくることは、費用と職員の問題から難しい。番組内容の改善に取り組み、また地域によってチャンネルが違うことの周知を進めていきたい。

【委員】

最近取り組まれていたこともアナウンサーの企画はとても良かった。

【事務局】

いつも見てくれている人は、今回の企画は良かったなどの意見はいただけるが、普段みていただいていない人にどれだけ企画に対して興味を持っていただくかが課題だと認識している。

【委員】

このような面白い企画の番組があることを知らないことも多い。周知の方法をもっと考えていってほしい。

【事務局】

ケーブルテレビさんも同じ取材に行っており、行政番組よりケーブルテレビさんのほうが自由に内容が流せるので行政番組に興味に向かない部分もある。番組の周知については番組表の配布やフェイスブックで放送する番組内容をアップしているが他の方法も考えていきたい。

【委員】

フェイスブックに番組表が載っているというが、議会中継を見ている年齢の人たちにはフェイスブックなどSNSの操作はできない。

【委員】

逆に、若い人たちはテレビを見ない。フェイスブックなどで面白い内容が掲載されていたらどんどん拡散されて興味を持つ。実際に最近では、フェイクニュースの記事はSNSでどんどん広まっていった。

【委員】

SNSなど若者が興味のある手段だけに絞って、流行るニュースを配信するほうが費用もかからないし良いのかもしれないが、その方法ばかりだと高齢者を切り捨てていくことになってしまう。

【委員】

アンケートを取るときに、SNSなどを使いこなせない高齢者や毎日行政番組を見ている人たちは「なぜ毎日見ているのか」と意見を聞いてみて、見ている人たちの意見も今後の参考にするのもいいのではないか。

【事務局】

検討したいと思う。

【委員】

YouTube やフェイスブックにウィークリー伊賀市の内容を流していないのか。

【事務局】

フェイスブックにはウィークリー伊賀市の番組内容をあげており、YouTube では「マイルール」や「だから忍者市宣言!!」などのコーナーに絞ってアップしている。

【委員長】

色々と意見が出ておりますが、他に何かございますか。ないようですので、次に入らせていただきます。議題3の「2) だから忍者市宣言!!について」事務局さんお願いします。

【事務局】

前回いろんな意見をいただいた中で、忍者の歴史や文化に光をあてて、どう関わりがあり市民が伝統をどのように受け継いでいるのかを知ってもらい、シビックプライドを高めってもらうために始めた。放送スケジュールに載せているように今後も毎月放送していくが、その中でも市街地の忍者のイメージだけでなく、高尾や玉瀧など市街地以外の忍者と関係する内容についても取り上げていこうと思っている。

(実際の放映された映像を見てもらう)

3月までは忍者の歴史や史跡、市民にどのように受け継がれているのかという内容を取り上げていきたいと思っている。

審議の時間は少ないですが、見てもらった印象を教えていただきたい。もっと明るい感じのほうがいいや、2分半から3分ぐらいのコーナーにしているがもっと細かいところも取り入れたほうが良いなどご意見をいただきたい。

【委員】

シビックプライドを高めるためというのは忍者の伝統を知って市民のプライドを高めるという意味でよいのか。

【事務局】

はい。市民が「伊賀市って何もないよ」と他市の人に言っていると前にも意見が出ていた。まずは「伊賀市にはこんなものがあるよ」という魅力を伊賀市民が知ってほしいという考えでコーナーを作っていこうと思っている。

【委員】

それならば、市民のプライドをくすぐるような番組にする必要がある。子ども向けだと手裏剣などで良いとは思いますが、忍者でいえば「伊賀忍者」という、他市の忍者と比べて伊賀の忍者たちは偉かったんだということをもっとアピールするのが大事だと思う。

【事務局】

手裏剣などの子ども向けだけではなく、他の市に比べて伊賀の忍者は注目されているところにもスポットをあてて取り組んでいきたいと思う。

【委員】

最近他市の忍者との違いが分からなくなっているのもっと活用しないといけない。他市でもいろんな忍者が出てきているから伊賀忍者のすごさが伝わっていない。

【事務局】

他市では忍者の戦法戦術の格好良いところだけを取り上げているが、伊賀市は文化としての長い伝統や食などの深さがあるところも伝えないといけないと思っている。

【委員長】

時間に限りがありますので、ここからは4.その他のご質問・ご意見を一緒にいただきたいと思います。

【委員】

3、4ヶ月前ぐらいに朝日新聞で芭蕉さんの話が載っていて、とても面白かったので参考にしてもいいと思う。伊賀市のことについて書いている記事を見つけて、参考にしてみてください。

【事務局】

国際忍者学会でも取り上げて講座などを設けているので参考にしたいと思う。

【委員】

前回の議事録を付けてもらえるととても分かりやすかった。今後も継続して参考資料として付けてほしい。

【事務局】

今後も前回の議事録は送付するように対応する。

【委員】

「だから忍者市宣言!!」については、映像の口調が重くて子どもが見たら怖がってしまう。もう少し明るい内容も取り入れてみても良いんじゃないか。

【事務局】

内容が深いものなので市民スタッフさんに重い口調で読んでもらうようお願いしていた。今後は内容によって口調も変えていくよう検討する。

【委員】

今後の放送スケジュール内容をみると、正直内容が深すぎて分からない。この内容は前提に人物を充分に知っている人向けになってしまっているが、他市から引っ越してきた人や人物を知らない若者たちが見ても分かるような内容も時には取り上げてほしい。

【事務局】

内容だけでなく、基本的な人物紹介も取り上げていくよう検討する。

【委員】

基礎知識がないと、それこそ伊賀忍者のすごさや面白さが分からないかもしれない。子供向けや明るく入門編のようなものを盛り込んでいくと良いと思う。

【委員長】

他にございますか。本日はたくさんのご意見をいただきましたが時間となりましたので今回の番組検討委員会を終了とさせていただきます。ご審議ありがとうございました。